

製品名: PPAR デルタウサギモノクローナル抗体**カタログ番号: AMRe86760**

研究使用のみ

概要

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IP
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	-
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50mM トリスグリシン（pH 7.4）、0.15M NaCl、40%グリセロール、0.01%アジ化ナトリウム、0.05%保護タンパク質を含む溶液で提供されます。受領日から12ヶ月間安定です。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000, IP 1:20-1:50
分子量	Calculated MW:50 kDa; Observed MW:50 kDa

抗原情報

遺伝子名	PPAR delta
別名	FAAR; NUC1; NUCI; NR1C2; NUCII; PPARB
遺伝子 ID	5467
SwissProt ID	Q03181
免疫原	ヒト PPAR デルタの合成ペプチド

背景

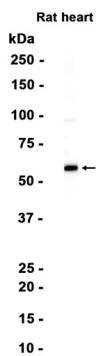
この遺伝子は、ペルオキシソーム増殖因子活性化受容体（PPAR）ファミリーのメンバーをコードしています。コードされているタン

パク質は、転写抑制と核内受容体シグナル伝達の統合因子として機能すると考えられています。ペルオキシソーム増殖因子活性化受容体 α および γ のリガンド誘導性転写活性を阻害する可能性があります。この効果の証拠は一貫していません。大腸がん細胞におけるこの遺伝子の発現は変動する可能性があります。通常は比較的低い値を示します。マウスを用いたノックアウト研究では、このタンパク質が脳梁の髄鞘形成、脂質代謝、分化、および表皮細胞の増殖に関与していることが示唆されています。選択的スプライシングにより、異なるタンパク質アイソフォームをコードする複数の転写産物バリエーションが生成されます。[RefSeq 提供、2017年8月]

研究分野

-

画像データ



PPAR デルタウサギモノクローナル抗体を 1:1000 で使用してラット心臓組織抽出物のウェスタンブロット分析を行いました。